

クラスのお話集をつくろう

小学校 2年 国語
「お話のさくしゃになろう」
教科での活用

ねらい

- 文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。
- 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

学習展開

- ① 今までに学習した物語とその作者を思い出し、物語とは何か確認する。お話を作って読んでもらうという見通しを持つ。
- ② 教科書の絵から想像し、どんなお話にするか考える。
- ③ 書き出しを工夫したり、主語と述語の関係に気を付けたりしながらお話を書く。
- ④ 書いたお話を友だちと読み合い、感想を伝え合う。



第1・2時での司書による読み聞かせ



友だちと話し合いながら
どんなお話にするか考
える児童たち

司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、お話のあらすじや登場人物、主語と述語の関係が分かりやすい絵本を選び、読み聞かせをする。
- 司書教諭は学校司書の読み聞かせの後、「だれが 何をして どうなった」お話なのかを確認する。
- 学校司書は書き出しの異なる本を集める。
- 司書教諭は児童が作ったお話の推敲指導を行い、学校司書は出来上がった本を製本し学校図書館に展示する。

指導のポイント

- 作ったお話を「学校図書館でみんなに読んでもらう」というゴールを設定し、相手意識をもって学習に取り組めるようにする。
- 書き出しの参考にするため、書き出しの異なる本を紹介する。
- 普段からたくさんの物語に触れられるよう本を紹介したり、読み聞かせをしたりしておく。

資料

主語、述語が分かりやすい絵本、「はじめ・なか・おわり」が分かりやすい絵本
書き出しの異なる本（場所から始まる、時から始まる、登場人物の紹介から始まる、「」から始まるなど）